

山中湖

富士五湖の中で最も標高が高く、最も大きい山中湖は、今日、人気の行楽地です。この湖の南北両方から延びる主要な道は、どちらも富士山北麓地域と駿河国や相模国（現在の静岡県と神奈川県）といった地域を繋いでいました。どちらの道も吉田口登山道を通して富士山北面を登りに向かう巡礼者たちが利用しました。山中湖の南西岸で水行と呼ばれる身を清める沐浴の儀式を行うことが慣習となっていました。

山中湖の南西岸の村にある小さなお寺の前には、「奉納鯉」と刻まれた石碑が立っています。この碑は 19 世紀初期に丸正講という名の富士講によって建立されました。